


JAREC



平成22年度
産学連携人材育成支援委託事業
**農林水産・食品分野における
コーディネーター人材育成研修プログラム**

研修のねらいとプログラムの概要

JAREC

1 研修のねらい

背景
農山漁村に豊富に存在する資源を活用した**新産業の創出には素材・医薬・エネルギーなどの異分野の連携を強化した開発の推進が重要**

対応
連携強化のため本年度(平成22年度)より
〇『農林水産省産学官連携事業コーディネーター』を全国に配置して地域における産学連携活動を一体的に支援
〇農林水産・食品分野で既に活動されているコーディネーターや今後同様の業務を担当することを希望する方に対する本分野における産学連携支援人材の技術の向上を図る

研修のねらい
農林水産・食品分野の共同研究へ参画し、産業規模の拡大を図れる人材の輩出

1

JAREC

2 本プログラムにおいて目標とする人材像

- 〇 信頼と尊敬を受けるコーディネーター
- 〇 現場ニーズ・産業界のニーズ・社会ニーズを明確に把握している
- 〇 大学・研究機関などの研究・技術シーズについて将来展望を語る

2

JAREC

3 3年間の研修プログラム計画の構成とスキル

3

JAREC

4 平成22年度研修プログラムと研修のねらい

ロードマップ法での「産学連携共同研究プロジェクト」の可視化

4

JAREC

4 平成22年度研修プログラムと研修のねらい

POINT

日付	時間	内容	講師(取材先)	研修の留意点/ポイント
10:00		『研修のねらいとプログラムの概要』	事務局	本プログラムのねらいと研修内容について説明する。
11:00		『自己紹介～業務の現状と課題』	受講者全員 [レポーター] 幸崎 正樹 全日本地産研究交流協会	受講者から業務活動の現状(課題)紹介。本プログラム参加にあたる自身の業務と抱える課題を共有し、今後の課題解決に向けたネットワークづくりが期待されている。
12:00		昼食		
13:00	13:00-13:30	『農林水産分野における技術開発動向および研究の現状』	農林水産省 農林水産技術会議事務局	『農林水産研究基本計画』における重点研究目録・研究の現状紹介すると共に現在の事業内容を説明する。
13:40	13:40-14:30	『農林水産系コーディネーターに学ぶ視座』 - 農薬系・工業系分野の技術開発の比較から -	北村 寛典 NPO法人 近畿アグリハイテク 事務局次長 農水コーディネーター	農林水産分野において活動するコーディネーターの勤務を紹介する。また受講者から提示された課題について意見を討論する。
15:00		休憩		
15:10		『産地からの視座で行われてきた農林水産 産学連携の事例』 - 地域イノベーション創出総合支援事業等から -	野野 浩希 九州大学准教授	産地からの農林水産産学連携研究について産地・研究・産学連携の視座から受講者から提示された課題について意見を討論する。
16:00		『研究シーズの評価の視点』 - 事例による課題解決の事例紹介 -	野野 浩希 九州大学准教授	研究シーズの評価の視点を技術的・経済的観点から事例を通じて受講者との討論を通じて視点を深化する。
17:00		解散		

5

5 平成22年度研修プログラムと研修のねらい

2日目	プログラム	講師(敬称略)	研修の概要とポイント
10:00	開会 『土壌微生物バイオセンサーの検出原理と製品化における産学官連携による取組の紹介』 - グループ討議のためのケース事例紹介 -	大和田 功 有限会社・イグニス 代表取締役	異分野連携の取組事例から課題解決に向けてのポイントを確認。 グループ討議でのケーススタディの事例としてポイントを整理する。
11:00	講義 『産業科(バイオ)が計画(種苗・熟成計)システムを構築・活用しその課題』 - グループ討議のためのケース事例紹介 -	土川 寛 奈良先端科学技術大学院大学 生命農学研究所 教授	産学連携の実践事例から課題解決推進に向けてのポイントを確認。 グループ討議でのケーススタディの事例としてポイントを整理する。
12:00	昼食		
13:00	12時 15分 開講 『環境ニーズに即した研究計画づくりには? - 計画形成のヒント』 - 事例による課題設定手法の解説 -	菅原 幸吾 九州大学名誉教授 中嶋 正好 全日本地域研究交流協会	グループ討議のテーマについてケース事例をもとに検討方法を示す。
14:00	13時 15分 開講 グループ討議 『ケーススタディ』 ケース事例分析①	【座長】 菅原 幸吾 九州大学名誉教授 佐村 隆雄 近畿大学リサーチマネージャ長 中嶋 正好 全日本地域研究交流協会	【講義】(座長)の取組事例からケーススタディを行う。当該事例での研究ニーズの洗い出しと研究課題の設定。課題解決のためのポイントを整理する。65に新たな視点での課題解決の方向性討議を構築する。
15:00	14時 15分 開講 グループ討議 『ケーススタディ』 ケース事例分析②	菅原 幸吾 九州大学名誉教授 佐村 隆雄 近畿大学リサーチマネージャ長 中嶋 正好 全日本地域研究交流協会	【座長】(座長)の取組事例からケーススタディを行う。当該事例での研究ニーズの洗い出しと研究課題の設定。課題解決のためのポイントを整理する。65に新たな視点での課題解決の方向性討議を構築する。
16:00	15時 15分 開講 ケース事例分析発表・全体討議	受講者代表	各ケース事例の分析結果を発表し、ポイントを共有する。
17:00	16時 15分 開講 閉会	会場長	

5 平成22年度研修プログラムと研修のねらい

ケースメソッド

ケースメソッド研修の進め方

講師による研修事例の紹介

- (1) 現場の問題点(背景)
- (2) 技術課題
- (3) その解決策(技術、解決策の仕掛け)
- (4) 産学官の連携(体制と参加者の役割分担)
- (5) 結果から見た“効果的な進展の要因”は

グループ討議(ニーズとシーズの結合を検討しながら)
“真の課題設定”を検討する
現場ニーズ・技術シーズ・特長的な機能は何か